

総会報告

第2回定時総会報告

日 時：平成24年3月8日(木) 13時00分～14時30分

会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）

出席代議員数：57名（内委任状48名）

（代議員数総数：59名、総会成立の定数30名以上）

議 案：

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) 平成23年度（3月～12月）事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成23年度（3月～12月）決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成24年度（1月～12月）事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成24年度（1月～12月）予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成24年度役員の内 | 【第3号議案】 |
| (6) 名誉会員推挙の内 | 【第4号議案】 |

議 事：

午後1時00分、定款第15号に基づき川村貞夫会長が議長となり、出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第2回定時総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第1号議案】

平成23年度事業報告
（自平成23年3月1日 至 平成23年12月31日）

I 庶 務

1. 会員状況

	平成23年12月31日現在	平成22年12月31日現在	増減
名誉会員	8名	8名	0名
正会員	2,957名	2,977名	20名減
学生会員	1,123名	1,173名	50名減
賛助会員58団体（84口）	59団体（85口）	1団体減（1口減）	

2. 総会

第1回定時総会

会 期：平成23年3月29日（火）

会 場：本郷瀬川ビル

出席代議員数：54名（うち 委任状提出：33名）（代議員総数：59名、総会成立の定数30名以上）

（議題の可決に必要な出席者数：代議員数40名）

議 題：平成22年度の事業報告・決算報告、平成23年度の事業計画・予算計画、平成23年1月～2月の事業報告・決算報告、平成23年3月～12月の事業計画・予算計画、個人会員除名処分、理事・監事の選任、会費入金金細則改訂

上記について審議し、議決した。

3. シンポジウム、講習会等の主催、共催、協賛、後援（定款第4条1号、5号）

- (1) シンポジウム、講演会、講習会等9件を主催した。
- (2) シンポジウム、国際会議、講習会、コンテスト等8件を共催した。
- (3) シンポジウム、国際会議、講演会、講習会、展示会、研究会等73件を協賛した。
- (4) シンポジウム、国際会議、講習会、コンテスト、展示会等15件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| (1) 会誌編集委員会 | （委員長：佐野明人） |
| (2) 欧文誌委員会 | （委員長：細田 耕） |
| (3) 事業計画委員会 | （委員長：梅田和昇） |
| (4) 国際委員会 | （委員長：横小路泰義） |
| (5) 研究協議会 | （委員長：浅間 一） |
| (6) 出版事業委員会 | （委員長：梅田和昇） |
| (7) 電子化運営委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (8) アドバイザリーボード | （委員長：川村貞夫） |
| (9) 将来ビジョン策定委員会 | （委員長：川村貞夫） |
| (10) 事務局体制検討委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (11) 第29回学術講演会実行委員会 | （委員長：水川 真） |
| (12) 表彰委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (13) 第25回論文賞選考小委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (14) 第26回研究奨励賞選考小委員会 | （委員長：川村貞夫） |
| (15) 第27回研究奨励賞選考小委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (16) 第16回実用化技術賞選考小委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (17) 第4回功労賞選考小委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (18) 第3回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (19) 第1回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (20) 外部表彰選考小委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (21) 会員5000名拡大計画委員会 | （委員長：小平紀生） |
| (22) 著作権管理委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (23) 学術講演会管理推進委員会 | （委員長：浅間 一） |
| (24) 30周年記念ロボット歴史アーカイブ小委員会 | （委員長：小平紀生） |

5. 役員を選出

平成23年度の理事・監事を選出した。

6. 運営報告会、理事会

- (1) 平成23年9月7日(水)に運営報告会を開催し、会務報告を行った。
- (2) 平成23年度中に12回理事会を開催し、会務の審理と処理を行った。

7. フェロー、名誉会員の選任

8名のフェローを選任した。

8. 学会の基盤強化

- (1) 産業貢献活動強化
昨年度に引き続き、学術講演会において、各企業での事業活動紹介セッションを実施した。

9. 電子化運営委員会

- (1) 学会ホームページのリニューアルの検討を開始した。
- (2) 学術予稿集のCD化の検討を開始した。

10. 30周年記念行事企画

30周年記念行事として以下の企画を行うことで検討を開始した。

- (1) 教科書の出版
- (2) 歴史のアーカイブ化・年表作成
- (3) 設立特別功労賞の授与
- (4) 他学会連携企画
- (5) 若手提案企画をIROS25周年と連携

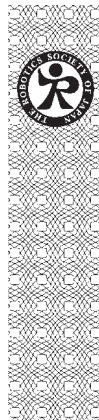
11. 無料シンポジウム「ロボットハイスクール（高校生のための産業用ロボット講習会）」を開催した。

日 時：2011年11月12日

講習編 10：30～12：50

実習編 14：30～16：30

場 所：東京ビッグサイト東2ワークショップ会場



参加者：スクール参加者 46 名（高校生：35 中学生：5 教員・保護者：6）
取材・見学参加者 3 名
講師、インストラクタ、アシスタント 10 名

12. 事務局

- (1) 一般社団法人における規程類の見直しを行い、規程改訂した。
- (2) 中長期的な視点に立つて事務局体制について検討を開始し、事務局と各委員会の裁量範囲を拡大する方向性を確認した。詳細については、引き続き事務局体制検討委員会にて検討する。

II 事業（定款第 4 条 1 号）

1. 学術講演会

(1) 第 29 回学術講演会

期 日：2011 年 9 月 7 日(水)～9 日(金)
会 場：芝浦工業大学
組 織：実行委員長：水川 真(芝浦工業大学)
プログラム委員長：長谷川泰久(筑波大学)

発表件数：709 件
セッション数 107

オーガナイズドセッション 27, 展開セッション 7, ストラテジックセッション 2, 国際セッション 5

特別講演：講師 山海嘉之教授 [筑波大学, CYBERDYNE 株式会社 CEO]

タイトル：「サイバニクスを駆使したロボットスーツ HAL の現状と近未来」

併設行事：

震災対応ロボティクス・シンポジウム
第 65 回ロボット工学セミナー「実用ロボット—誕生秘話と今後の展望」
IHH フォーラム

東京都高齢者支援技術活用促進研究会と産業化支援
ロボット体験教室

特別セッション「産業・社会・教育のイノベーションを推進するには」

特別セッション 2「有本卓 元 RJSJ 会長から若手研究者へのメッセージ～ロボットの知能・巧みさへの挑戦～」

チュートリアル インターネットを利用したロボットサービス基盤としての RSNP 講習会 5

チュートリアル 「海外研究用ロボットチュートリアル」マイクマウス競技デモンストレーション

参加者数：1,336 名
正 会 員：688 名
学 生 会 員：434 名
非 会 員：72 名
学 生 非 会 員：129 名
そ の 他：13 名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第 62 回シンポジウム「ロボットに使える画像処理技術の最前線」

期 日：2011 年 5 月 30 日(月) 東京大学
講 師：浦西友樹(奈良先端大), 出口大輔(名大), 長谷川勉(九大), 黄瀬浩一(大阪府立大)

オーガナイザ：奥田晴久(三菱電機)

参加者：117 名(会員：35 名, 学生：58 名, 会員外：15 名, 賛助優待：7 名, 賛助半額：2 名)

(2) 第 63 回シンポジウム「ロボットの作り方 2011」

期 日：2011 年 6 月 10 日(金), 11 日(土) 東京工業大学
講 師：広瀬茂男(東工大), 高山俊男(東工大), 山田浩也(東工大)(+実習)

オーガナイザ：高山俊男(東工大), 山田浩也(東工大)

参加者：50 名(会員：12 名, 学生：31 名, 会員外：5 名, 賛助優待：1 名, 賛助半額：1 名)

(3) 第 64 回シンポジウム「人と共生するロボットのインタラクティブ技術」<関西開催>

期 日：2011 年 7 月 8 日(金) ATR

講 師：萩田紀博(ATR), 宮下敬宏(ATR), 土井美和子(東芝), 藤田善弘(NEC)

オーガナイザ：山口智治(NEC)

参加者：46 名(会員：18 名, 学生：14 名, 会員外：8 名, 賛助優待：1 名, 賛助半額：5 名)

(4) 第 65 回シンポジウム「実用ロボット—誕生秘話と今後の展望」<学術講演会連動>

期 日：2011 年 9 月 6 日(火) 芝浦工業大学

講 師：富士原寛(日本ロボット工業会), 徳丸順一(セールス・オンデマンド), 田中一正(大和ハウス工業), 高橋里枝(パナソニック), 高本陽一(テムザック)

オーガナイザ：日高洋士(富士通研究所), 十倉征司(東芝)

参加者：59 名(会員：24 名, 学生：6 名, 会員外：13 名, 賛助優待：4 名, 賛助半額：12 名)

(5) 第 66 回ロボット工学セミナー「動物に見る賢さと巧みさ～新しいロボットへの道標～」

期 日：2011 年 9 月 14 日(水) 東京大学

講 師：小林耕太(同志社大), 村山 司(東海大), 藤井直敬(理研), 関 喜一(産総研)

オーガナイザ：鍋島厚太(CYBERDYNE(株))

参加者：16 名(会員：8 名, 学生：4 名, 会員外：4 名, 賛助優待：0 名, 賛助半額：0 名)

(6) 第 67 回ロボット工学セミナー「最新シミュレーション技術とロボティクス」

期 日：2011 年 10 月 24 日(月)

講 師：杉山博之(東京理科大), 梶田秀司(産総研), 廣瀬通孝(東大), 稲邑哲也(NII), 姫野龍太郎(理研)

オーガナイザ：坂本守行(川崎重工業)

参加者：31 名(会員：16 名, 学生：6 名, 会員外：2 名, 賛助優待：5 名, 賛助半額：2 名)

(7) 第 68 回ロボット工学セミナー「ロボティクスにおける認識や物体操作のための触覚技術」

期 日：2011 年 11 月 21 日(月)

講 師：前野隆司(慶大), 篠田裕之(東大), 下条 誠(電通大), 細田 耕(阪大), 長久保晶彦(産総研), 佐野明人(名工大)

オーガナイザ：山野辺夏樹(産総研)

参加者：22 名(会員：8 名, 学生：6 名, 会員外：5 名, 賛助優待：3 名, 賛助半額：0 名)

のべ参加者 341 名(会員：121 名, 会員外：125 名, 学生：52 名, 賛助優待：21 名, 同半額：22 名)

3. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。

共催 5 件, 協賛 61 件, 後援 9 件, その他 4 件(2011 年 3 月～12 月 31 日審査分)

国内共催事業：

(1) 第 16 回ロボティクスシンポジウム

期 日：2011 年 3 月 14 日(月)～15 日(火)

会 場：指宿シーサイドホテル(鹿児島県)

実行委員長：余 永(鹿児島大学)

プログラム委員長：栗栖正充(東京電機大学)

(2) 公開シンポジウム「震災復興にむけて ロボット技術のいま」

期 日：2011 年 5 月 2 日(月)

会 場：東京大学 弥生講堂一条ホール(東京都)

主 催：対災害ロボティクス・タスクフォース

(3) ロボカップジャパンオープン 2011 大阪

期 日：2011 年 5 月 3 日(火)～5 日(木)

- 会場：インテックス大阪(大阪府)
主催：ロボカップ2011 大阪開催委員会
- (4) フォーラム「カー・ロボティクス～モビリティの拡がりを支える先進技術～」
期 日：2011年5月20日(金)
会 場：パシフィコ横浜(神奈川県)
企 画：カー・ロボティクス調査研究委員会(自動車技術会・日本ロボット学会)
- (5) 第11回レスキューロボットコンテスト
期 日：2011年8月6日(土)・7日(日)
会 場：神戸サンポーホール(兵庫県)
主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会、兵庫県、神戸市、(株)神戸商工貿易センター、読売新聞大阪本社
- (6) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2011
期 日：2011年10月22日(土)・23日(日)
会 場：仙台市科学館(宮城県)
主 催：ロボット競技会実行委員会

4. 出版事業

昨年度に引き続き出版事業委員会を立ち上げ、以下の書籍の編集作業等を行った。

「ロボットテクノロジー」、日本ロボット学会編、オーム社、2011年8月30日発行。

概要：最新のロボット技術を、工学部学生などを対象として紹介。ロボット技術の様々な側面を俯瞰できるように、70近いテーマを選別して、それぞれの分野の著名な先生方に執筆依頼。

III 学 会 誌 (定款第4条2号)

学会誌第29巻2号～10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次の通りである。

- 第29巻2号 研究者が『ロボット』を伝えるために
第29巻3号 人と接するロボットの研究を考える
第29巻4号 ロボット技術の国際標準
第29巻5号 確率理論のロボティクス応用
第29巻6号 機構の知と技
第29巻7号 第28回日本ロボット学会学術講演会論文特集号Ⅰ
第29巻8号 第28回日本ロボット学会学術講演会論文特集号Ⅱ
第29巻9号 ロボットと安全コンポーネント
第29巻10号 人口ロボット共生学

特集号企画に関しては、時代を反映して「人」に着目した企画を行った。また、グローバル化に伴い、ロボット技術の国際標準や世界に通用する安全コンポーネントに関する企画も行った。さらに、特定分野を勉強するのに適した企画も行った。今年度5年目を迎えた学術講演会論文特集号は、定番企画として定着している。普段投稿が少ない研究分野からの論文投稿を促し、投稿件数が増えることでより質の高い論文が多く掲載されるなど、ロボット学を活性化する重要な役割を担っている。名古屋工業大学で開催された第28回学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対し、201件の論文投稿を推薦し71件の投稿を得て、査読結果に基づき最終的に2号合計で22件の論文を掲載した。

年間の論文投稿件数は184件(前年度167件)、判定結果は採録可50%(43%)、採録不可(再投稿を推薦)27%(32%)、採録不可23%(25%)であった。判定までの期間は平均93日、最短29日、最長195日(103日、41日、186日)で、掲載までの期間は平均289日(306日)であった。再投稿を推薦した論文の再投稿率38%(32%)、採録率88%(57%)であった。なお、評価点項目別の採録率は、学術性58%、有用性42%、提案性50%となっている。

本学会では、学会誌の価値を保証するために、掲載論文には新しい情報が含まれていることを強く求め、日本ロボット学会誌・寄稿および査読に関する規則集(一般社団法人化に伴い、平成23年11月16日に制定)において、「学会誌に掲載される論文は、他の学術刊行物に未発表であること」と明記した。したがって、国際会議のプロシーディングス等に既発表あるいは投稿中の論文の内容と重複する論文を投稿

する場合は、新たな内容の追加や内容の充実が必要となる。また、査読をスムーズかつ適切に行うために、類似度が高い論文がある場合は、論文投稿時に類似論文リストを合わせて提出することとした。

一般記事に関しては、東日本大震災関連記事2編を掲載した。また、本学会協力記事を掲載しているロボコママガジンには、一般社会においてロボットに対する認識が非常に狭くなっていることから、できるだけ道具としてのロボット技術に注目した執筆者の推薦を行った。

インターネットを活用した学会誌の普及のために、論文・解説記事等をJ-STAGEにて第29巻1号から公開を開始した。公開は冊子発行から約1ヶ月後であり、公開後1年間は認証が設定されている。また、バックナンバーの第27巻も合わせて公開した。なお、第26巻以前のバックナンバーは、すでにJournal@rchiveから公開されている。

J-STAGEでの学会誌公開に伴い、論文の電子付録として動画投稿を受け付ける準備を行った(平成24年2月受付開始予定)。なお、動画の付随する論文であっても、論文はそれ単独で完結していなければならないこと、査読者は論文を理解する上で動画を参考にするが、動画の有無やその内容、質を判定の材料にはしないことなどの基本方針を定め、具体的に動画作成要領を寄稿および査読に関する規則集に追加した。また、動画(電子データ)の公開のために、一般社団法人日本ロボット学会著作権規程の改訂を行った。

広告に関しては、目標額500万円に対して達成率は90%であった。なお、特集号の企画内容に関連したスポット広告は効果的だった。

IV 欧 文 誌 (定款第4条2号)

1. 欧文誌(Advanced Robotics)編集・発行

Vol.25を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

25/5	Mar.	Physical Human-Robot Interaction Through Force Interface (7 papers/pp. 511-674)
25/6-7	Apr.	Regular Issue (13 papers/pp. 675-962)
25/8	May	Cordless Technology for Milli/Micro/Nano Robots (6 papers/pp. 963-1084)
25/9-10	Jun.	Regular Issue (13 papers/pp. 1085-1364)
25/11-12	Jul.	Regular Issue (11 papers/pp. 1365-1602)
25/13-14	Aug.	Regular Issue (12 papers/pp. 1603-1850)
25/15	Sep.	Rehabilitation Robotics on Mobility & Manipulation (7 papers/pp. 1851-2018)
25/16	Oct.	Regular Issue (5 papers/pp. 2019-2124)
25/17	Nov.	Dynamical System Involving Symbol Processing (5 papers/pp. 2125-2232)
25/18	Dec.	Regular Issue (6 papers/pp. 2233-2360)

2. 論文の投稿、査読の状況

平成23年(2011年)における年間論文投稿総数は343件(一般論文・266件、特集号論文・77件)であった(下表参照)。投稿論文の採録率は、28.4%(一般論文24.3%、特集号39.3%)であった。

(参考) 国・地域別投稿数の推移

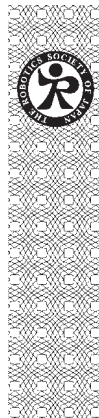
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
日本	85	61	61	54	104	140	92	120
東アジア	22	55	47	58	81	66	101	96
(うち中国)	4	20	14	26	50	34	43	40
(うち韓国)	17	27	23	28	26	23	45	48
南/東南アジア・中近東	14	18	15	26	26	29	46	37
欧州	22	29	40	26	40	53	49	49
アフリカ	1	1	1	2	3	5	6	5
北・中・南米	14	23	19	19	30	33	27	29
オセアニア	0	0	0	5	4	6	2	7
合 計	158	187	184	190	288	332	323	343

3. 企画/編集/発行作業

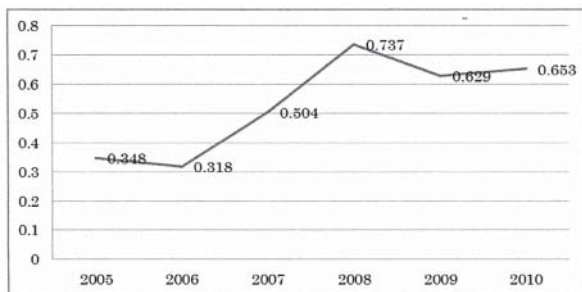
投稿論文数の増加を目指して、昨年同様、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

・Institute for Scientific Information (ISI) 社のCitation Index (インバ



クトファクタ)の推移を以下に示す。2010年のインパクトファクタは微増しているものの、ロボティクス分野においては14位と、他誌に比較して、その増え方が少ない。2010年に18号化となったためインパクトファクタを増やすという意味では技術的に不利があるが、投稿料無料という著者に対するメリットと、Brill社との連携を通して、インパクトファクタ向上を進めていく。



5. 共同事業者である Brill 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2012年 (Vol. 26) 年間発行数: 18号

1. 会員全員の電子購読料金 24,000 ユーロ/年
2. プリント版 会員価格 360 ユーロ (送料込み)

V 企 画

1. 研究調査活動 (定款第4条3号)

研究専門委員会

前年度から継続して、以下の研究専門委員会活動を実施。

- ・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会 (委員長: 成田雅彦, 2010.3 発足, I種)
 - ・ロボット市場創造課題研究専門委員会 (委員長: 川村貞夫, 2009.10 発足, 2011.3 終了, I種)
 - ・生活機能構成学に関する研究専門委員会 (委員長: 西田佳史, 2009.10 発足, 2011.4 継続, I種)
 - ・RT 機能安全研究専門委員会 (委員長: 山田陽滋, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I種)
 - ・身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会 (委員長: 尾形邦裕, 2009.4 発足, 2011.3 終了, I種)
 - ・関西ロボット系若手研究者ネットワーク (委員長: 栗田雄一, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I種)
 - ・ヒューロピント研究専門委員会 (委員長: 松下光次郎, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I種)
 - ・ロボット教育研究専門委員会 (委員長: 琴坂信哉, 2008.8 発足, 2010.8 継続, II種)
 - ・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会 (委員長: 山本元司, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I種)
 - ・北海道ロボット技術研究専門委員会 (委員長: 小林幸徳, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I種)
 - ・カー・ロボティクス研究専門委員会 (委員長: 永井正夫, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I種)
 - ・ロボティック・サイエンス研究専門委員会 (委員長: 國吉康夫, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I種)
 - ・手の巧みさ研究専門委員会 (委員長: 星野 聖, 2007.1 発足, 2011.1 継続, II種)
 - ・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会 (委員長: 新妻実保子, 2007.1 発足, 2011.1 継続, II種)
- なお、ロボット市場創造課題研究専門委員会、身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会については、2011年3月末で終了とした。

調査研究委員会

東日本大震災に対して、情報収集、情報発信、震災からの復旧復興の記録作成、および提言を行う新たな調査研究委員会を設置した。

- ・東日本大震災関連調査研究委員会

(委員長: 川村貞夫, 2011.10 発足)

2. 規約等の制定・整備

- ・表彰規定の改定
研究奨励賞の選考手順に関する規程を改訂した。
- ・研究専門委員会の終了時の成果報告を会員に公開する手順を定めた。
- ・研究専門委員会が講演会等の共催・協賛を行う際の手続きを整備した。

3. 表彰 (定款第4条4号)

- ・2011年9月第29回学術講演会において、論文賞4件、実用化技術賞3件、研究奨励賞11件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞3件、功労賞1件、ロボット活用社会貢献賞2件の贈賞を行った。
- ・ファナックFAロボット財団の論文賞に3件を推薦し、内2件が論文賞(賞金100万円)を受賞した。
- ・(財)東レ科学振興会の東レ科学技術賞と東レ科学技術研究助成に各1件を推薦した。

【論文賞】

- ・複数の接地部分と冗長関節を有するヒューマノイドロボットの受動性に基づく最適接触力制御

(日本ロボット学会誌 第27巻 第2号, pp. 178-187)

玄 相晃 ((独) 科学技術振興機構/ (株) ATR)

- ・脳-身体-環境の相互作用ループに能動的に介入する昆虫微小脳を用いた脳-機械融合系の構築

(日本ロボット学会誌 第28巻 第4号, pp. 445-454)

高嶋 淳 (東京工業大学), 峯岸 諒 (東京大学), 倉林大輔 (東京工業大学), 神崎亮平 (東京大学)

- ・自動車組立ラインのウィンドウ搭載支援ロボット

(日本ロボット学会誌 第28巻 第5号, pp. 624-630)

村山英之 (トヨタ自動車 (株)), 武居直行 (首都大学東京), 松本邦保 (トヨタ自動車 (株)), 鴻巣仁司 (トヨタ自動車 (株)), 藤本英雄 (名古屋工業大学)

- ・低バックラッシュ立体カム機構を用いたロボットハンドの開発—軽量ロボットハンドの試作と関節機構の評価—

(日本ロボット学会誌 第28巻 第7号, pp. 889-896)

安沢孝太 (福島大学), 佐々木裕之 (鶴岡工業高等専門学校), 鄭 聖熹 (大阪電気通信大学), 高橋隆行 (福島大学)

【実用化技術賞】

- ・人と協働する自動車組立ラインのウィンドウ搭載支援ロボット

村山英之, 藤原弘俊 (トヨタ自動車 (株)), 武居直行 (名古屋工業大学 現: 首都大学東京), 鈴木太志, 柴田篤志 ((株) アラキ製作所), 松本邦保, 鴻巣仁司 (トヨタ自動車 (株)), 藤本英雄 (名古屋工業大学)

- ・原子炉容器出入口管台 高速化 INLAY 技術

下鍋典昭, 大西献, 大平真, 日並一幸, 杉浦篤 (三菱重工業 (株))

- ・「きぼう」ロボットアームと装置交換機構による軌道上組立技術の実用化

上野浩史, 土井忍, 若林靖史 ((独) 宇宙航空研究開発機構), 桑尾文博, 竹貝朋樹 (日本電気 (株)), 吉江勇貴, 高田正治 ((株) IHI エアロスペース), 服部浩明 (三菱スペース・ソフトウェア (株)), 福井教夫 (有人宇宙システム (株)), 渡辺順一郎 (東京エレクトロニクスシステムズ (株))

【研究奨励賞】

- ・尾崎 健 (岡山大学)

大腸内視鏡誘導ラバーアクチュエータの新断面形状の導出と基礎実/第28回学術講演会 (1N3-2)

- ・粕谷昌宏 (早稲田大学)

動力義手の微細な力制御手法の提案—筋電と振動計測を用いた把持力推定/第28回学術講演会 (1J2-8)

- ・下坂正倫 (東京大学)

最大マージン・ワイヤレスセンサ位置推定/第15回ロボティクスシンポジウム (6A1)

- ・関口明生 (筑波大学)

仮想非ホロノミック拘束を用いたスピニング加工用教示システムの開発/第28回学術講演会 (3F2-5)

- ・高野 渉 (東京大学)
クリスタルボール：運動の記号推論を通じた未来の行動予測／第28回学術講演会 (3F2-5)
- ・竹内栄二郎 (東北大学)
3次元環境地図を用いた自由空間観測モデルによる未知物体にロボ
スタな自己位置推定／第15回ロボティクスシンポジウム (3A1)
- ・武田光一 (東北大学)
流体回路による大域的相互作用を活用した自律分散制御～アメーバ
様ソフトロボットを用いた実験的検証～／第28回学術講演会 (3N2-
7)
- ・萩原将也 (名古屋大学)
マイクロ流体チップ内で超高速動作する双腕マイクロロボットによ
る細胞操作・切断／第28回学術講演会 (2M2-7)
- ・星野智史 (東京工業大学)
自動走行制御のための循環行動する自律移動ロボット群渋滞解析／
第28回学術講演会 (3G3-5)
- ・三宅正樹 (岡山大学)
扁平電磁ニューテーションモータの開発 (第1報：基本構造と制御
方法)／第28回学術講演会 (1N2-5)
- ・山川雄司 (東京大学)
高速多指ハンドシステムによる視覚フィードバックを用いた布の動
的折りたたみ操作／第28回学術講演会 (1O3-6)
- 【ロボティクスシンポジウム研究奨励賞】**
- ・岡本正吾 (名古屋大学)
力の錯覚：指先への振動触刺激による質量・粘性知覚のバイアス／
第16回ロボティクスシンポジウム (3B1)
- ・鈴木太郎 (早稲田大学)
GNSS マルチパス波判別を複合した精密単独測位による屋外移動ロ
ボットの位置推定／第16回ロボティクスシンポジウム (1A2)
- ・多田隈理一郎 (山形大学)
全方向駆動歯車機構“Omni-Gear”の研究 各曲率の駆動ユニット
構造と基本動作特性について／第16回ロボティクスシンポジウム
(3B5)
- 【功労賞】**
- ・稲邑哲也 (国立情報学研究所)
Advanced Robotics の会員全員購読化
- 【ロボット活用社会貢献賞】**
- ・独立行政法人 宇宙航空研究開発機構「はやぶさ」プロジェクトチ
ーム
宇宙探査におけるロボット技術の活用促進及びロボット技術の普及
啓蒙に対する貢献
- ・特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構
レスキューロボットの研究開発・実用化と東日本大震災および原子
力発電所事故への対応を含む現場適用に関する貢献
- 【ファナック FA ロボット財団論文賞】**
- ・仮想駆動力冗長性に基づく4自由度高速パラレル・メカニズムの開発
(日本ロボット学会誌 第28巻 第6号, pp.766-773)
永井 清, 嵩裕一郎 (立命館大学), 西部雄貴, 山中 篤 (トヨタ自
動車 (株))
- ・Safety Strategy for Human-Robot Collaboration: Design and
Development in Cellular Manufacturing
(Advanced Robotics, vol. 24, no. 5-6, pp. 839-860)
Jeffrey Too Chuan Tan, Feng Duan, Ryu Kato and Tamio Arai
(The University of Tokyo)
- VI 国 際 (定款第4条5号)**
- 1. 国際委員会活動
国際委員会では、日本のロボット工学の優位性を保ちながら世界で
の存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し
実施するための活動を行い、国際会議の共催・協賛を通して積極的に
海外に対して学会のプレゼンスを高め、アジア圏においてはアジアロ
ボット学会連合を中心とした交流活動を行っている。本年度もこれま
でに議論した国際戦略ののっとり、1) 学会から発信する情報の質と量

- の充実、2) 広報活動、3) 研究協力活動、4) 海外とのネットワークの
構築に向けた取り組みの4点について活動を行った。
- 2. 第29回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施
第29回日本ロボット学会学術講演会においても、日本滞在中の外国
人研究者の学術講演会への参加を促進し、また、外国人研究者による
最先端の発表を会員に提供するため、セッションの司会、発表、質疑
応答の全てが英語で行われる国際セッションを設けた。
今回の国際セッションには41件の投稿があり、セッション構成は以
下の通りであった。
- (1) Robotics Research by Foreign Researchers in Japan (1) 7件,
参加者 36名
- (2) Robotics Research by Foreign Researchers in Japan (2) 7件,
参加者 55名
- (3) Robotics to Understand Human Motion and Human Motion
Analysis to Control Robots 7件, 参加者 60名
- (4) Advances in Open-source Robotics Tools (1) 5件, 参加者 40
名
- (5) Advances in Open-source Robotics Tools (2) 6件, 参加者 54
名
- (6) Assistive Robotics 5件, 参加者 31名
- (7) Humanoids 4件, 参加者 38名
- 会場でのアンケート結果からは、質の高い発表と質疑応答の実現に
よって参加者には大変好評であった。ただし、国際セッションは年々
規模が拡大しており、運営上の負担も増してきていることから、今後
もこれまでと同様に講演料、参加費を無料としていくべきかを議論す
ることとなった。
- 3. 国際交流活動
第5回アジアロボット学会連合サミットミーティング (5th Asian
Robotics Society Union Summit Meeting) を IROS2011 の会期中に開
催した。
- ・日 時：2011年9月28日 11:45-14:00
- ・場 所：Union Square 1 & 2, Hilton San Francisco Union Square
- ・参 加 者：Bruce MacDonald (Vice President of ARAA, The
University of Auckland) (オーストラリア代表), Sang-
Rok Oh (President of KROS, KIST), Dong-Soo Kwon
(Vice President of KROS, KAIST), Nak Young Chong
(Director of International Cooperation of KROS, JAIST),
Hyouk Ryeol Choi (Director of International Cooperation
of KROS, Sungkyunkwan University) (以上4名, 韓国代
表), Chen I-Min (Nanyang Technological University)
(シンガポール代表代理), Sup Premvuti (Kirinson, Inc.)
(タイ代表代理), 川村会長, 浅岡副会長, 佐藤監事, 細
田事務局長, 横小路国際理事, 松元国際理事, 吉田庶務
理事, 坪内前事業理事 (以上8名, 日本代表)：以上計
15名
- ・審議・合意事項
- (1) インドロボット学会の ARSU 加入が認められた。
- (2) ロボット教育の標準化に向けて、日本が推進する Robopedia へ
の協力を依頼した。
- (3) ARSU メンバー国間での若手研究者の交流を推進することとし
た。
- ・補足
このサミットミーティングでの合意に基づき、当学会の HUROBINT
研究専門委員会と韓国ロボット学会若手研究グループ共同企画「若手
研究者のための国際ワークショップ」が韓国ロボット学会、日本ロ
ボット学会の協賛、ARSU の後援のもとで開催され、日本側7名、韓国
側30名ほどが参加した。
- 日 時：11月23日(ワークショップ), 24日(ラボツアー, KITECH,
KIST)
- 場 所：韓国, 仁川 (Incheon), URAI2011 と併催
- 4. 国際会議への対応
- ・ROMAN Steering Committee への出席 (2011年7月31日 19:



00-21:30)

- ・ IROS Advisory/Steering Committee への出席 (2011 年 9 月 25 日 12:30-15:00)

※次回 IROS2012 が, IROS 開催 25 回目となるため, それを記念する企画をロボット学会から提案することとなった.

5. 情報発信, その他

- ・ 日本ロボット学会英文ホームページの変更への対応.
- ・ ARSU (アジアロボット学会連合) ホームページの更新.
- ・ Join RSJ (英語版学会入会案内) を IROS2011 の参加者配布物に同梱.

6. 国際会議共催/協賛

本会に関連する国際会議を共催 (3 件), 協賛 (12 件), 後援 (2 件) した.

主な共催会議:

- ・ 20th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2011)
期日: 2011 年 7 月 31 日~8 月 3 日, 会場: アトランタ, 合衆国
- ・ 2011 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2011)
期日: 2011 年 9 月 25 日~9 月 30 日, 会場: サンフランシスコ, 合衆国

VII 事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません.

【第2号議案】

平成23年度決算報告

貸借対照表
平成23年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	218,771,228
現金	3,908,971
普通預金	70,901,222
振替口座金	9,656,799
通常貯金	1,002,680
定期預金	133,301,556
未収会費	2,936,000
未収金	3,648,890
前払金	607,523
仮払金	3,597,895
流動資産合計	229,561,536
2. 固定資産	
(1) 特定資産	
退職給付引当資産	6,499,510
定期預金	21,000,000
特定財産合計	27,499,510
(2) その他固定資産	
電話加入権	153,100
敷金	63,000
保証金	2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100
固定資産合計	30,215,610
資産合計	259,777,146
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	3,589,789
前受会費	24,034,000
預り金	547,650
仮受金	3,632,895
未払法人税等	70,000
流動負債合計	31,874,334
2. 固定負債	
退職給付引当金	6,499,510
固定負債合計	6,499,510
負債合計	38,373,844
III 正味財産の部	
一般正味財産	221,403,302
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)
正味財産合計	221,403,302
負債及び正味財産合計	259,777,146

貸借対照表内訳表
平成23年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	1,597,895	2,000,000	215,173,333	0	218,771,228
未収会費			2,936,000		2,936,000
未収金			3,648,890		3,648,890
前払金			607,523		607,523
仮払金			3,597,895	3,597,895	0
流動資産合計	1,597,895	2,000,000	225,963,641	3,597,895	225,963,641
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	4,712,145	162,488	1,624,877		6,499,510
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	4,712,145	162,488	22,624,877	0	27,499,510
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	4,788,409	187,693	25,239,508	0	30,215,610
資産合計	6,386,304	2,187,693	251,203,149	3,597,895	256,179,251
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			3,589,789		3,589,789
前受会費			24,034,000		24,034,000
預り金			547,650		547,650
仮受金	1,597,895	2,000,000	35,000	3,597,895	35,000
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	1,597,895	2,000,000	28,276,439	3,597,895	28,276,439
2. 固定負債					
退職給付引当金	4,712,145	162,488	1,624,877		6,499,510
固定負債合計	4,712,145	162,488	1,624,877	0	6,499,510
負債合計	6,310,040	2,162,488	29,901,316	3,597,895	34,775,949
III 正味財産の部					
一般正味財産	76,264	25,205	221,301,833	0	221,403,302
正味財産合計	76,264	25,205	221,301,833	0	221,403,302
負債及び正味財産合計	6,386,304	2,187,693	251,203,149	3,597,895	256,179,251



正味財産増減計算書

平成 23 年 3 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①特定資産運用益	13,996
特定資産受取利息	13,996
②受取入金	453,000
正会員受取入金	90,000
学生会員受取入金	363,000
③受取会費	13,110,000
正会員受取会費	9,150,000
学生会員受取会費	3,400,000
賛助会員受取会費	560,000
④事業収益	45,881,723
申込金事業収益	3,380,000
参加費事業収益	12,160,000
懇親会参加費事業収益	2,723,000
展示料事業収益	3,890,000
講演概要集広告料事業収益	250,000
セミナー参加費事業収益	2,804,700
会誌掲載料事業収益	12,829,950
会誌広告料事業収益	4,631,487
会誌頒布事業収益	1,896,090
編集料事業収益	1,316,496
⑤雑収益	8,977,716
受取利息	112,694
雑収益	8,865,022
経常収益計	68,436,435
(2) 経常費用	
①事業費	62,052,187
給料手当	7,616,976
臨時雇賃金	3,728,744
退職給付費用	524,299
福利厚生費	822,003
旅費交通費	2,450,113
通信運搬費	4,029,426
消耗品費	2,594,532
印刷製本費	17,148,809
賃借料	2,098,290
諸謝金	1,332,498
租税公課	41,145
支払負担金	6,348,649
委託費	12,337,837
雑費	978,866
②管理費	26,772,836
給料手当	6,847,690
臨時雇賃金	2,735,030
退職給付費用	174,657
福利厚生費	453,709
会議費	414,055
旅費交通費	560,634
通信運搬費	794,729
消耗什器備品費	471,544
消耗品費	929,552
印刷製本費	725,468
光熱水料費	279,354
賃借料	5,706,678
保険料	6,000
支払手数料	404,724

諸会費	315,200
諸謝金	1,356,175
租税公課	30,255
委託費	2,331,443
雑費	2,235,939
経常費用計	88,825,023
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 20,388,588
評価損益等計	0
当期経常増減額	△ 20,388,588
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 20,388,588
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	△ 20,458,588
一般正味財産期首残高	241,861,890
一般正味財産期末残高	221,403,302
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	221,403,302

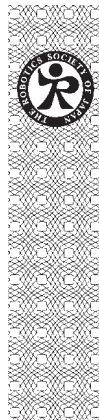
正味財産増減計算書内訳表

平成 23 年 3 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

No. 1

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計
	継1 シボゾウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金								
学生会員入会金								
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費								
学生会員会費								
賛助会員会費								
事 業 収 益	0	19,357,527	1,316,496	0	0	0	0	20,674,023
申 込 金								
参 加 費								
懇 親 会 参 加 費								
展 示 料								
講 演 概 要								
集 広 告 料								
セミナー参加費								
会誌掲載料		12,829,950						12,829,950
会誌広告料		4,631,487						4,631,487
会誌頒布収入		1,896,090						1,896,090
編 集 料			1,316,496					1,316,496
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経 常 収 益 計	0	19,357,527	1,316,496	0	0	0	0	20,674,023
(2) 経常費用								
事 業 費	201,297	26,748,425	5,534,676	1,531,395	6,198,313	1,657,170	0	41,871,276
給 料 手 当		4,840,088			2,308,873			7,148,971
臨 時 雇 賃 金		38,900		211,750	1,524,094			1,774,744
退 職 給 付 費 用		367,109			139,725			506,834
福 利 厚 生 費		554,868			237,757			792,625
旅 費 交 通 費		74,440	680	370,820	126,300	1,063,173		1,635,413
通 信 運 搬 費	113,097	3,551,339	95,310	16,065	26,650	58,980		3,861,441
消 耗 品 費		226,151	156,729	49,366	1,650,973			2,083,219
印 刷 製 本 費		13,617,283		253,412		84,604		13,955,299
賃 借 料				168,566				168,566
諸 謝 金				375,277				375,277
租 税 公 課		27,135						27,135
支 払 負 担 金			2,731,957	61,340		114,352		2,907,649
委 託 費		3,451,102	2,550,000					6,001,102
雑 費	88,200			24,799	183,941	336,061		633,001
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								
臨 時 雇 賃 金								
退 職 給 付 費 用								
福 利 厚 生 費								
会 議 費								
旅 費 交 通 費								
通 信 運 搬 費								
消 耗 品 費								
印 刷 製 本 費								
光 熱 水 料 費								
賃 借 料								
保 険 料								
支 払 手 数 料								
諸 会 費								

諸 謝 金								
租 税 公 課								
委 託 費								
雑 費								
経 常 費 用 計	201,297	26,748,425	5,534,676	1,531,395	6,198,313	1,657,170	0	41,871,276
評 価 損 益 等 計	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
当 期 経 常 増 減 額	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経 常 外 収 益 計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経 常 外 費 用 計	0	0	0	0	0	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0
税 引 前 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
法 人 税 住 民 税 産 生 税								
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0	0	0	0	0	0
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
II 指定正味財産増減の部								
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0	0	0	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253



正味財産増減計算書内訳表

平成 23 年 3 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで

No. 2

科 目	その他会計				法人 会計	小計	内部 取引 消去	合計
	他 1 学術講 演会	他 2 講習会	共通	小計				
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	13,996	13,996	0	13,996
特定資産受取利息					13,996	13,996		13,996
受 取 入 会 金	0	0	0	0	453,000	453,000	0	453,000
正会員入会金					90,000	90,000		90,000
学生会員入会金					363,000	363,000		363,000
受 取 会 費	0	0	0	0	13,110,000	13,110,000	0	13,110,000
正 会 員 会 費					9,150,000	9,150,000		9,150,000
学生会員会費					3,400,000	3,400,000		3,400,000
賛助会員会費					560,000	560,000		560,000
事 業 収 益	22,403,000	2,804,700	0	25,207,700	0	0	0	45,881,723
申 込 金	3,380,000			3,380,000				3,380,000
参 加 費	12,160,000			12,160,000				12,160,000
懇親会参加費	2,723,000			2,723,000				2,723,000
展 示 料	3,890,000			3,890,000				3,890,000
講演概要集広告料	250,000			250,000				250,000
セミナー参加費		2,804,700		2,804,700				2,804,700
会誌掲載料								12,829,950
会誌広告料								4,631,487
会誌頒布収入								1,896,090
編 集 料								1,316,496
雑 収 益	0	0	0	0	8,977,716	8,977,716	0	8,977,716
受 取 利 息					112,694	112,694		112,694
雑 収 益					8,865,022	8,865,022		8,865,022
経常収益計	22,403,000	2,804,700	0	25,207,700	22,554,712	22,554,712	0	68,436,435
(2) 経常費用								
事 業 費	18,469,644	1,711,267	0	20,180,911	0	0	0	62,052,187
給 料 手 当	468,005			468,005				7,616,976
臨時雇賃金	1,799,000	155,000		1,954,000				3,728,744
退職給付費用	17,465			17,465				524,299
福利厚生費	29,378			29,378				822,003
旅費交通費	473,330	339,370		814,700				2,450,113
通信運搬費	142,555	25,430		167,985				4,029,426
消耗品費	130,468	380,845		511,313				2,594,532
印刷製本費	3,115,560	77,950		3,193,510				17,148,809
賃 借 料	1,746,820	182,904		1,929,724				2,098,290
諸 謝 金	422,221	535,000		957,221				1,332,498
租 税 公 課	9,917	4,093		14,010				41,145
支払負担金	3,441,000			3,441,000				6,348,649
委 託 費	6,338,735			6,338,735				12,337,837
雑 費	335,190	10,675		345,865				978,866
管 理 費	0	0	0	0	26,772,836	26,772,836	0	26,772,836
給 料 手 当					6,847,690	6,847,690		6,847,690
臨時雇賃金					2,735,030	2,735,030		2,735,030
退職給付費用					174,657	174,657		174,657
福利厚生費					453,709	453,709		453,709
会 議 費					414,055	414,055		414,055
旅費交通費					560,634	560,634		560,634
通信運搬費					794,729	794,729		794,729
消耗什器備品費					471,544	471,544		471,544
消耗品費					929,552	929,552		929,552
印刷製本費					725,468	725,468		725,468
光熱水料費					279,354	279,354		279,354
賃 借 料					5,706,678	5,706,678		5,706,678
保 険 料					6,000	6,000		6,000
支払手数料					404,724	404,724		404,724
諸 会 費					315,200	315,200		315,200

諸 謝 金				1,356,175	1,356,175		1,356,175	
租 税 公 課				30,255	30,255		30,255	
委 託 費				2,331,443	2,331,443		2,331,443	
雑 費				2,235,939	2,235,939		2,235,939	
経 常 費 用 計	18,469,644	1,711,267	0	20,180,911	26,772,836	26,772,836	0	88,825,023
評価損益等調整前 当期経常増減額	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	-4,218,124	-4,218,124	0	-20,388,588
評 価 損 益 等 計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	-4,218,124	-4,218,124	0	-20,388,588
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	-4,218,124	-4,218,124	0	-20,388,588
法人税・住民税					70,000	70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	-4,288,124	-4,288,124	0	-20,458,588
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	241,861,890	241,861,890	0	241,861,890
一般正味財産期末残高	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	237,573,766	237,573,766	0	221,403,302
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	237,573,766	237,573,766	0	221,403,302

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 会計区分の変更

当年度より会計基準は「平成20年新基準」を適用している。

「平成20年新基準」の会計区分は、「実施事業等会計」「その他会計」及び「法人会計」である。

従前の会計基準の会計区分は、「一般会計」及び「特別会計」である。

3. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	8,300,554	698,956	2,500,000	6,499,510
定 期 預 金	21,000,000			21,000,000
合 計	29,300,554	698,956	2,500,000	27,499,510

4. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	6,499,510	—	(0)	(6,499,510)
定 期 預 金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	27,499,510	(0)	(21,000,000)	(6,499,510)

附 属 明 細 書

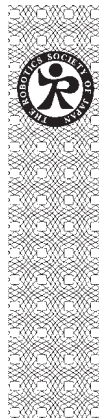
1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「3. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	8,300,554	698,956	2,500,000	—	6,499,510



お 知 ら せ

財 産 目 録

平成 23 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	3,908,971	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	15,596,334	
〃 みずほ銀行本郷支店	10,698,830	
〃 みずほ銀行本郷支店	1,101,700	
〃 みずほ銀行本郷支店	10,452,187	
〃 りそな銀行本郷支店	207,271	
〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	6,603,904	
〃 三井住友銀行小石川支店	26,240,996	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,209,132	
定期預金 三菱 UFJ 信託銀行本店	60,048,000	
定期預金 みずほ銀行本郷支店	18,044,424	
振替口座 ゆうちょ銀行	9,656,799	
通常貯金 ゆうちょ銀行	1,002,680	
未収会費 平成 23 年度会費 431 名	2,936,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	3,648,890	
前払金 平成 24 年 1 月分事務所家賃他	607,523	
流動資産合計		225,963,641
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金)三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	6,499,510	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		27,499,510
(2) その他固定資産		
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		30,215,610
資産合計		256,179,251
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 日本ロボット学会誌 29-10・出版費他	2,048,754	
人材派遣費 12 月分	618,990	
12 月分給与(細田分)	500,000	
公認会計士・税理士顧問料 11, 12 月分	153,300	
コピー機使用料他	268,745	
前受会費 会費前受分	24,034,000	
預り金 源泉所得税	211,298	
〃 住民税	19,900	
〃 社会保険料	316,452	
仮受金 会費誤入金分	35,000	
未払法人税等 平成 23 年度分法人住民税	70,000	
流動負債合計		28,276,439
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	6,499,510	
固定負債合計		6,499,510
負債合計		34,775,949
正味財産		221,403,302

監 査 報 告

私たち監事は、平成23年3月1日から平成23年12月31日までの第一期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成24年2月6日

一般社団法人日本ロボット学会

監 事 佐 藤 知 正 ㊟

監 事 佐 久 間 一 郎 ㊟

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成23年3月1日から平成23年12月31日までの第一期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成24年2月6日

一般社団法人日本ロボット学会

監 事 佐 藤 知 正 ㊟

監 事 佐 久 間 一 郎 ㊟

【報告資料1】

平成24年度 事業計画案

(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

I 庶 務

1. 第2回定時総会

会 期：平成24年3月8日(木)

会 場：本郷瀨川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名

委員長

(1月～3月)

委員長

(3月～12月)

(予定)

(1) 会誌編集委員会	佐野明人	久野義徳
(2) 欧文誌委員会	細田 耕	金宮好和
(3) 事業計画委員会	梅田和昇	大矢晃久
(4) 国際委員会	横小路泰義	松元明弘
(5) 研究協議会	浅間 一	浅間 一
(6) 出版事業委員会	梅田和昇	大矢晃久
(7) 電子化運営委員会	小平紀生	小平紀生
(8) アドバイザリーボード	川村貞夫	川村貞夫
(9) 将来ビジョン策定委員会	川村貞夫	川村貞夫
(10) 事務局体制検討委員会	小平紀生	小平紀生
(11) 第30回学術講演会実行委員会	田中孝之	田中孝之
(12) 表彰委員会	浅間 一	浅間 一
(13) 第26回論文賞選考小委員会		小平紀生
(14) 第27回研究奨励賞選考小委員会	小平紀生	小平紀生
(15) 第28回研究奨励賞選考小委員会		小平紀生
(16) 第17回実用化技術賞選考小委員会		浅間 一
(17) 第5回功労賞選考小委員会		小平紀生
(18) 第4回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会		浅間 一
(19) 第2回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会		小平紀生
(20) 外部表彰選考小委員会	浅間 一	浅間 一
(21) 会員5000名拡大計画委員会	小平紀生	小平紀生
(22) 著作権管理委員会	浅間 一	浅間 一
(23) 学術講演会管理推進委員会	浅間 一	浅間 一
(24) 30周年記念ロボット歴史アーカイブ小委員会		小平紀生

3. 役員の選出

平成24年度の理事・監事を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

会員の拡大、論文発表の活性化をめざし、広報活動、産業貢献活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出若年層への啓発活動を継続実施する。

6. 電子化運営委員会

- (1) 学会DBをもとに、会員限定サービスとして、会員の個人情報データベース編集・検索機能を設け、さらに会員名簿の電子化を実施する。
- (2) 学会ホームページを通じた会員サービス拡大を目指し、コンテンツの拡充をはかる。

7. 30周年記念行事

30周年記念行事を実施する。

8. 事務局

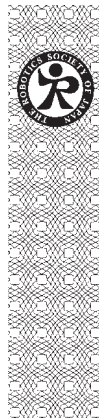
中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

II 事 業 (定款第4条1号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第30回学術講演会

期 日：2012年9月17日(月)～20日(木)



会 場：札幌コンベンションセンター
 実行委員長：田中孝之(北海道大学)
 プログラム委員長：鈴木昭二(はこだて未来大学)

2. ロボット工学セミナー

- (1) 第69回ロボット工学セミナー「ロボットに利用できるコンピュータビジョン技術」
期 日：2012年5月(予定)
オーガナイザ：中村明生(東京電機大学)
- (2) 第70回ロボット工学セミナー「ロボットの作り方2012」
期 日：2012年6月(予定)
オーガナイザ：滝田謙介(日本工業大学), 程島竜一(埼玉大学)
- (3) 第71回ロボット工学セミナー「次世代アクチュエータの技術動向と筋骨格系への応用」
期 日：2012年7月(予定)
オーガナイザ：辻 俊明(埼玉大学)
- (4) 第72回ロボット工学セミナー「アドバンストな環境認識センサとその処理方法」
期 日：2012年9月(予定)
オーガナイザ：大槻真嗣(宇宙航空研究開発機構)
- (5) 第73回ロボット工学セミナー「生体計測とインタフェース技術」
期 日：2012年10月(予定)
オーガナイザ：小林英津子(東京大学)
- (6) 第74回ロボット工学セミナー「サービスロボットの安全について」
期 日：2012年11月(予定)
オーガナイザ：中拓久哉((株)日立産機システム)
- (7) 第75回ロボット工学セミナー「ヒト歩行の生理学と、ロボット工学への応用」
期 日：2012年12月(予定)
オーガナイザ：門根秀樹(筑波大学)

3. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。
 国内共催事業(予定を含む)：

- 1) 第17回ロボティクスシンポジウム
期 日：2012年3月14日(水)・15日(木)
会 場：萩本陣 湯の丸(山口県萩市)
実行委員長：稲垣詠一(山口東京理科大学)
プログラム委員長：山本元司(九州大学)
- 2) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2012
期 日：2012年6月16日(土)・17日(日)
会 場：仙台市科学館(宮城県)
- 3) 第12回レスキューロボットコンテスト
期 日：2012年7月8日(日)・8月10日(金)～12日(日)
会 場：神戸サンポーホール
- 4) 第13回建設ロボットシンポジウム
期 日：2012年9月11日(火)
会 場：早稲田大学国際会議場井深大記念ホール
- 5) ロボカップジャパンオープン2012
期 日：未定
会 場：未定

III 学 会 誌 (定款第4条2号)

第30巻1号より10号を、1月、3月、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月に刊行し、会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

- 第30巻1号 共創知能システムプロジェクト
 第30巻2号 パラレルメカニズムと実用化
 第30巻3号 つくばチャレンジ論文特集号
 第30巻4号 2足歩行ロボット技術
 第30巻5号 ヒトの触覚特性を活かす
 第30巻6号 広がるテレロボティクス
 第30巻7号 第29回日本ロボット学会学術講演会論文特集号I
 第30巻8号 第29回日本ロボット学会学術講演会論文特集号II

第30巻9号 ロボティクス研究のためのソフトウェアツール(仮)
 第30巻10号 創立30周年記念特集号

前年度に引き続き、魅力的な特集号の企画などについて取り組む。特に、第30巻10号において創立30周年記念特集号を発行する予定であり、企画・準備を進める。なお、「国際化」をキーワードにした企画を予定している。また、学術講演会論文特集号に加え、特定テーマで企画した論文特集号を発行予定である。第30巻3号で「つくばチャレンジ論文特集号」を発行予定であり、第31巻2号で発行計画している「ロボット教育論文特集号」に関しては、平成24年2月29日の投稿期限以降、査読作業を行っていく。なお、論文採択率の適正化に向けた取り組みは継続して行っていく。一般記事に関しては、会議報告、コラム記事やロボット分野の著名な方とのインタビュー記事などの掲載を継続して行う。

平成24年2月から動画投稿受付を開始する。紙面だけでは困難であったロボットの魅力などの伝達手段として動画投稿を奨励して行く。これに伴い、学会HPの会誌関係のページをリニューアルし、論文投稿・動画投稿に関する注意事項・FAQなどを掲載する。また、動画投稿および類似論文リストの提出に伴い、電子投稿に際しての投稿画面も変更する。バックナンバーの第28巻は、3月までにJ-STAGEから公開予定であり、これで電子化・アーカイブ化が完了する。現在公開している学会HP上の学会誌検索システムは、平成24年3月31日をもって廃止する予定である。

広告に関しては、収入目標を550万円と設定し、前年度に対して50万円上乗せした。目標達成に向けた具体的取り組みを行う。

中長期的ビジョンとしては、和文誌・欧文誌という単純な括りで考えるのではなく、学会の発展を優先して改善策を検討して行く。たとえば、学会誌では、教育論文、企業論文、解説論文などで新しい領域を開拓し、ロボット研究のすそ野を広げて行く。日本語によるより深い議論が必要な領域では、将来的にも学会誌の存在価値は高いと考えられる。

IV 欧 文 誌 (定款第4条2号)

1. 欧文誌 (Advanced Robotics) の発行計画

下記のとおり、2012年度においてはVol. 26を年18巻発行することを計画している。

26/1-2	2012 Jan.	Regular Issue
26/3-4	Feb.	Cutting Edge of Robotics in Japan 2012
26/5-6	Mar.	Regular Issue
26/7	Apr.	Soft Robotics
26/8-9	May	Regular Issue
26/10	Jun.	Cutting Edge of Robotics in Japan 2012 (2)
26/11-12	Jul.	Regular Issue
26/13	Aug.	Sensor Information Processing in Robot Competition and Real World Robot Challenge
26/14	Sept.	Regular Issue
26/15-16	Oct.	Regular Issue
26/17	Nov.	IROS2011
26/18	Dec.	Regular Issue

2. 編集体制

2012年度は、新井史人編集長の下、20名の欧文誌委員会メンバーを中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌Advanced Roboticsの国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2011年度からの年間18号の運用により、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られている。今後は一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的な認知度のさらなる向上、掲載される論文の質の向上を図るとともに、Citation Indexの評価(インパクトファクタ)の向上を目指す。さらに、国際貢献の意味も含め、国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として、投稿料無料を堅持する。

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS2012 にあわせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画などを通して、国際的認知度を高める努力を行っていく。また国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また、国際委員会の活動に協力し、アジアロボット学会連合 (ARSU: Asian Robotics Society Union) の参加学会との協体制強化、パンフレットの国際会議場などでの配布、ウェブの英語コンテンツ充実、等を実施する。

V 企 画

1. 調査・研究専門委員会活動 (定款第4条3号)

以下の調査研究委員会、研究専門委員会による活動を行う。

- ・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会 (委員長: 成田雅彦, 2010.3 発足, I 種)
- ・生活機能構成学に関する研究専門委員会 (委員長: 西田佳史, 2009.10 発足, 2011.4 継続, I 種)
- ・RT 機能安全研究専門委員会 (委員長: 山田陽滋, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I 種)
- ・関西ロボット系若手研究者ネットワーク (委員長: 栗田雄一, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I 種)
- ・ヒューロビント研究専門委員会 (委員長: 松下光次郎, 2009.4 発足, 2011.4 継続, I 種)
- ・ロボット教育研究専門委員会 (委員長: 琴坂信哉, 2008.8 発足, 2010.8 継続, II 種)
- ・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会 (委員長: 山本元司, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I 種)
- ・北海道ロボット技術研究専門委員会 (委員長: 小林幸徳, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I 種)
- ・カー・ロボティクス研究専門委員会 (委員長: 永井正夫, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I 種)
- ・ロボティック・サイエンス研究専門委員会 (委員長: 國吉康夫, 2008.4 発足, 2010.4 継続, I 種)
- ・手の巧みさ研究専門委員会 (委員長: 星野 聖, 2007.1 発足, 2011.1 継続, II 種)
- ・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会 (委員長: 新妻実保子, 2007.1 発足, 2011.1 継続, II 種)
- ・東日本大震災関連調査研究委員会 (委員長: 川村貞夫, 2011.10 発足)

2. 規約等の制定・整備

学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。

3. 表彰 (定款第4条4号)

第30回学術講演会において論文賞、実用化技術賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降も財団法人ファナック F A ロボット財団の論文賞への候補論文の推薦、財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。

4. その他

本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

VI 国 際 (定款第4条5号)

平成24年度は、平成23年度の活動を継続し、着実にアジア全体のロボット学会との関係を積み上げていく基本方針である。

1. 国際委員会による国際化戦略活動の具体化

国際委員会が中心となって、1) 学会から発信する情報の質と量の充実、2) 広報活動、3) 研究協力活動、4) 海外とのネットワークの構築に向けた取り組み等に関する学会としての具体的な取り組み及びミッションステートメントを検討していく。また IROS2012 の25周年記念企画をきっかけとして、東京で開催される IROS2013 につながるような企画を検討する。

2. 第30回学術講演会における国際セッション

第30回学術講演会においても、国際セッションを実施する。基本的

にオーガナイズドセッションを主体としているが、この拡充を図る。なお、論文投稿方法、セッション構成の方法を改善できないか検討中であり、それを学術講演会全体の投稿システムに反映させる。また国際セッションに関する Web 情報提供に関しても充実する。

3. 国際交流活動

- (1) 第6回アジアロボット学会連合サミットミーティング (6th Asian Robotics Society Union Summit Meeting) の開催
日時および場所は、IROS2012 の期間中に学会会場 (ポルトガル、ピラモウラ) 内で開催する。
- (2) アジアロボット学会連合 (ARSU: Asian Robotics Society Union) の活動
 - 1) ARSU のウェブサイト <http://www.asian-robotics.org/> の拡充を行う。
 - ・MOU の承認後、掲載。
 - ・各国事務局の掲載。
 - ・解説記事や各国の代表的な研究成果を掲載するページを設け、研究成果の共有を図る。
 - 2) アジアロボット学会連合サミットミーティング事項を推進する。
 - ・Young Researchers Network を設ける。
 - ・加盟国の拡充を図る。
 - ・ARSU 主催の国際会議の開催の検討。
 - ・教科書等の翻訳を含む教育の推進協力。
- (3) 韓国ロボット学会 (KROS) との MOU の見直し
 - ・MOU に記載された KROS 会員の AR 購読条件が、AR の全員購読無料化に伴い不可能となったことに対応したため、MOU の見直しが必要である。

4. 国際会議

日本ロボット学会は Ro-Man, IROS の共催となっている。それらの運営には日本人研究者もあり、また会議参加者にも日本人研究者は多い。しかしながら日本からの論文採択率の低下傾向が見える。その現状を踏まえ、日本ロボット学会としては、両会議における日本ロボット学会のプレゼンス向上の方法を検討する。また同時に、将来を見据えて、若手研究者支援、ポスター、パワーポイント等を利用した積極的広報活動についても検討を行う。

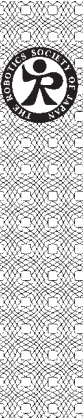
5. 情報発信、その他

- (1) 英文ホームページの更新、改善
国際化に有効と考えられるコンテンツの検討を行い、ホームページの改善に取り組む。
- (2) 英文ポスター等の検討
国際会議会場における RSJ の効果的な宣伝媒体について検討する。
- (3) 国際関係の30周年事業の検討
国際委員会として、ロボット学会30周年事業について検討する。

6. 国際会議共催/協賛

本学会に協賛、後援の依頼のあった国際会議、講演会等については、会員に有益と判断されるものについては積極的に協賛、後援を行い、RSJ の広報活動の場としても活用する。共催に関しては、運営主体の信頼性、また予算案の妥当性を検討して決定する。現在の共催予定は下記の通りである。

- ・第17回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB 17th '12)
期日: 2012年1月19日~1月21日, 会場: 別府, 日本
- ・2012 Robotics: Science & Systems (RSS2012)
期日: 2012年7月9日~7月12日, 会場: Sydney, Australia
- ・21th IEEE International Symposium in Robot and Human Interactive Communication (Ro-Man 2012)
期日: 2012年9月9日~9月12日, 会場: Paris, France
- ・2012 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2012)
期日: 2012年10月7日~10月11日, 会場: Vilamoura, Portugal



【報告資料 2】

平成 24 年度予算計画

収支予算書 (損益ベース) 平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日 (公益事業)

科 目	実施事業等会計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共 通	
I 一般正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 経常増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常収益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益								0
特定資産受取利息								0
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金								0
学生会員入会金								0
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費								0
学生会員会費								0
賛助会員会費								0
事 業 収 益	0	25,400,000	1,380,000	0	0	0	0	26,780,000
申 込 金								0
参 加 費								0
懇親会参加費								0
展 示 料								0
講演概要集広告料								0
セミナー参加費								0
会誌掲載料		17,500,000						17,500,000
会誌広告料		5,500,000						5,500,000
会誌頒布収入		2,400,000						2,400,000
編 集 料			1,380,000					1,380,000
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								0
雑 収 益								0
経 常 収 益 計	0	25,400,000	1,380,000	0	0	0	0	26,780,000
(2) 経常費用	0	0	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当	0	5,422,500	0	0	2,567,500	0	0	7,990,000
臨時雇賃金	50,000	40,000	0	0	3,500,000	0	0	3,590,000
退職給付費用	0	420,000	0	0	160,000	0	0	580,000
福利厚生費	0	787,500	0	0	300,000	0	0	1,087,500
旅費交通費	1,290,000	80,000	0	1,240,000		1,300,000		3,910,000
通信運搬費	1,000,000	5,500,000	140,000		30,000	60,000		6,730,000
消耗什器備品費		10,000	10,000		10,000			30,000
消耗品費		10,000	10,000		1,600,000			1,620,000
印刷製本費	100,000	18,000,000		310,000	300,000	50,000		18,760,000
賃 借 料	80,000							80,000
諸 謝 金	190,000			1,550,000				1,740,000
支払負担金			2,520,000			150,000		2,670,000
租 税 公 課	0	643,000	0	0	0	0		643,000
委 託 費		3,000,000	3,320,000					6,320,000
雑 費	250,000	1,100,000			1,700,000	3,300,000		6,350,000
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								0
臨時雇賃金								0
退職給付費用								0
福利厚生費								0
会 議 費								0
旅費交通費								0
通信運搬費								0
消耗什器備品費								0
消耗品費								0
印刷製本費								0

光熱水料費								0
賃 借 料								0
保 険 料								0
支払手数料								0
諸 会 費								0
諸 謝 金								0
租 税 公 課								0
委 託 費								0
雑 費								0
経 常 費 用 計	2,960,000	35,013,000	6,000,000	3,100,000	10,167,500	4,860,000	0	62,100,500
前期繰越増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-2,960,000	-9,613,000	-4,620,000	-3,100,000	-10,167,500	-4,860,000	0	-35,320,500
2. 経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
繰 及 び 事 業 税	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-2,960,000	-9,613,000	-4,620,000	-3,100,000	-10,167,500	-4,860,000	0	-35,320,500

収支予算書 (損益ベース) 平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日 (その他事業)

科 目	その他会計				法人会計 (C)	内部取引 消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共 通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0
1. 経常増減の部	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常収益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益					14,000	0	14,000
特定資産受取利息					14,000	0	14,000
受 取 入 会 金	0	0	0	0	510,000	0	510,000
正会員入会金					110,000	0	110,000
学生会員入会金					400,000	0	400,000
受 取 会 費	0	0	0	0	41,880,000	0	41,880,000
正会員会費					30,000,000	0	30,000,000
学生会員会費					5,000,000	0	5,000,000
賛助会員会費					6,880,000	0	6,880,000
事 業 収 益	21,830,000	2,900,000	0	24,730,000	0	0	51,510,000
申 込 金					3,500,000	0	3,500,000
参 加 費					12,500,000	0	12,500,000
懇親会参加費					2,850,000	0	2,850,000
展 示 料					2,550,000	0	2,550,000
講演概要集広告料					430,000	0	430,000
セミナー参加費		2,900,000		2,900,000	0	0	2,900,000
会誌掲載料					0	0	17,500,000
会誌広告料					0	0	5,500,000
会誌頒布収入					0	0	2,400,000
編 集 料					0	0	1,380,000
雑 収 益	0	0	0	0	4,418,000	0	4,418,000
受 取 利 息					118,000	0	118,000
雑 収 益					4,300,000	0	4,300,000
経 常 収 益 計	21,830,000	2,900,000	0	24,730,000	46,822,000	0	98,332,000
(2) 経常費用	0	0	0	0	0	0	0
事 業 費	0	0	0	0	0	0	87,356,300
給 料 手 当	299,500	283,500		583,000			8,573,000
臨時雇賃金	2,105,000	154,000	0	2,259,000			5,849,000
退職給付費用	20,000	0		20,000			600,000
福利厚生費	0	37,500		37,500			1,125,000
旅費交通費	250,000	280,000		530,000			4,440,000

通信運搬費	1,022,800	30,000	1,052,800	0	7,782,800
消耗什器備品費			0	0	30,000
消耗品費	100,000	154,000	254,000	0	1,874,000
印刷製本費	3,500,000	400,000	3,900,000	0	22,660,000
賃借料	8,030,000	175,000	8,205,000	0	8,285,000
諸謝金	0	525,000	525,000	0	2,265,000
支払負担金	4,154,500		4,154,500	0	6,824,500
租税公課	235,000	97,000	332,000	0	975,000
委託費	3,375,000		3,375,000	0	9,695,000
雑費	0	28,000	28,000	0	6,578,000
管理費	0	0	0	0	35,217,000
給料手当				7,627,000	7,627,000
臨時雇賃金			0	3,400,000	3,400,000
退職給付費用			0	200,000	200,000
福利厚生費			0	875,000	875,000
会議費			0	1,100,000	1,100,000
旅費交通費			0	1,000,000	1,000,000
通信運搬費			0	1,150,000	1,150,000
消耗什器備品費			0	100,000	100,000
消耗品費			0	1,000,000	1,000,000
印刷製本費			0	800,000	800,000
光熱水料費			0	300,000	300,000
賃借料			0	7,800,000	7,800,000
保険料			0	10,000	10,000
支払手数料			0	360,000	360,000
諸会費			0	320,000	320,000
諸謝金			0	2,100,000	2,100,000
租税公課			0	25,000	25,000
委託費			0	6,500,000	6,500,000
雑費			0	550,000	550,000
経常費用計	23,091,800	2,164,000	25,255,800	35,217,000	122,573,300
評価損益等調整前 当期経常増減額	0	0	0	0	0
2. 経常外増減の部	-1,261,800	736,000	-525,800	11,605,000	-24,241,300
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0
法人税、住民税 及び事業税	0	0	0	70,000	70,000
当期一般正味 財産増減額	-1,261,800	736,000	-525,800	11,535,000	-24,311,300

【第3号議案】

平成24年度役員の内

任期	平成24年度役員		
	平成22年3月～ 平成24年3月	平成23年3月～ 平成25年3月	平成24年3月～ 平成26年3月
理事		川村 貞夫	
理事		小平 紀生	
理事		浅間 一	
理事	吉田 和哉	長瀬 雅之	塚越 秀行
理事	大西 献	本田 幸夫	大明 準治
理事	野田 哲男	武藤 伸洋	三治信一郎
理事	森田 俊彦	木口 量夫	加賀美 聡
理事	佐野 明人	久野 義徳	松野 文俊
理事	細田 耕	金宮 好和	新井 史人
理事	梅田 和昇	大矢 晃久	吉田 英一
理事	水川 真	田中 孝之	山口 亨
理事	横小路泰義	松元 明弘	長谷川泰久
監事	佐藤 知正	佐久間一郎	榊原 伸介

【第4号議案】

名誉会員推挙の内

日本ロボット学会、名誉会員選任規程第2項（会長経験者、および、その他、ロボットの学術または技術に関する権威者で、かつ本会に対し功績顕著な者）に従い、下記の3名を新しく名誉会員として推挙したい。

木下源一郎 中央大学 教授 1941生 会員#266
 牧野 洋 牧野オートメーション研究所 1933生 会員# 43
 吉川恒夫 立命館大学 教授 1941生 会員#311

なお、これに伴い、日本ロボット学会名誉会員は下記11名となる。

花房秀郎 1923生 会員# 73
 森 政弘 1927生 会員# 25
 梅谷陽二 1932生 会員# 41
 稲葉清右衛門 1925生 会員#1070
 長谷川幸男 1927生 会員# 71
 有本 卓 1936生 会員#1078
 江尻正員 1937生 会員# 77
 三浦宏文 1938生 会員#1023
 木下源一郎 1941生 会員# 266
 牧野 洋 1933生 会員# 43
 吉川恒夫 1941生 会員# 311